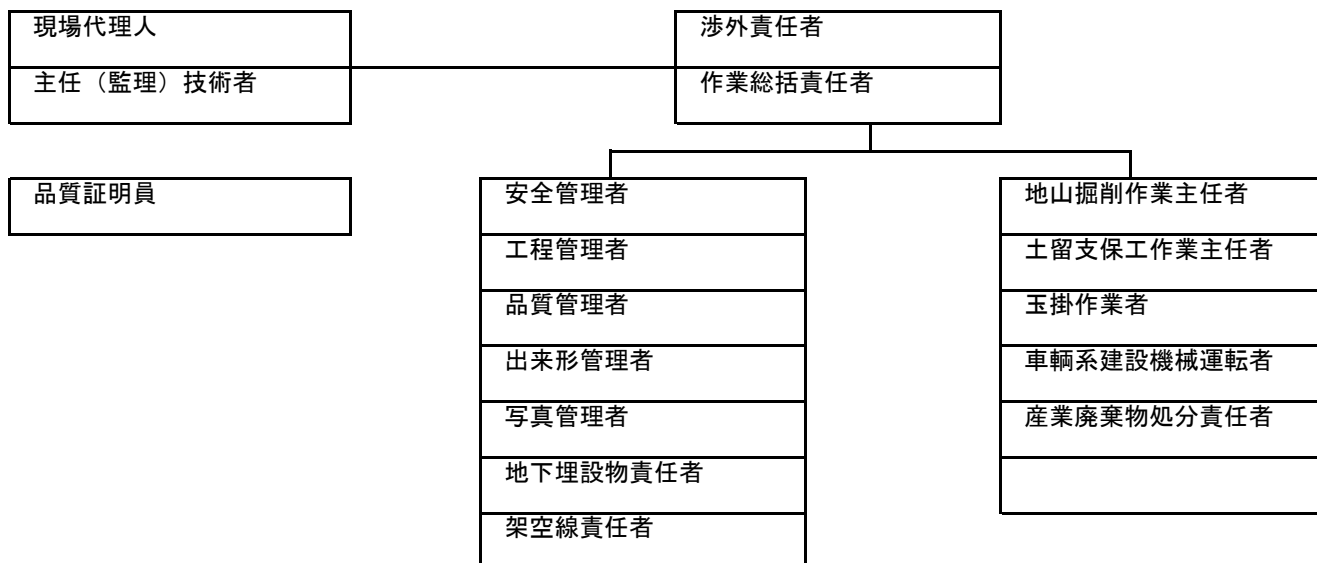


1. 工事概要

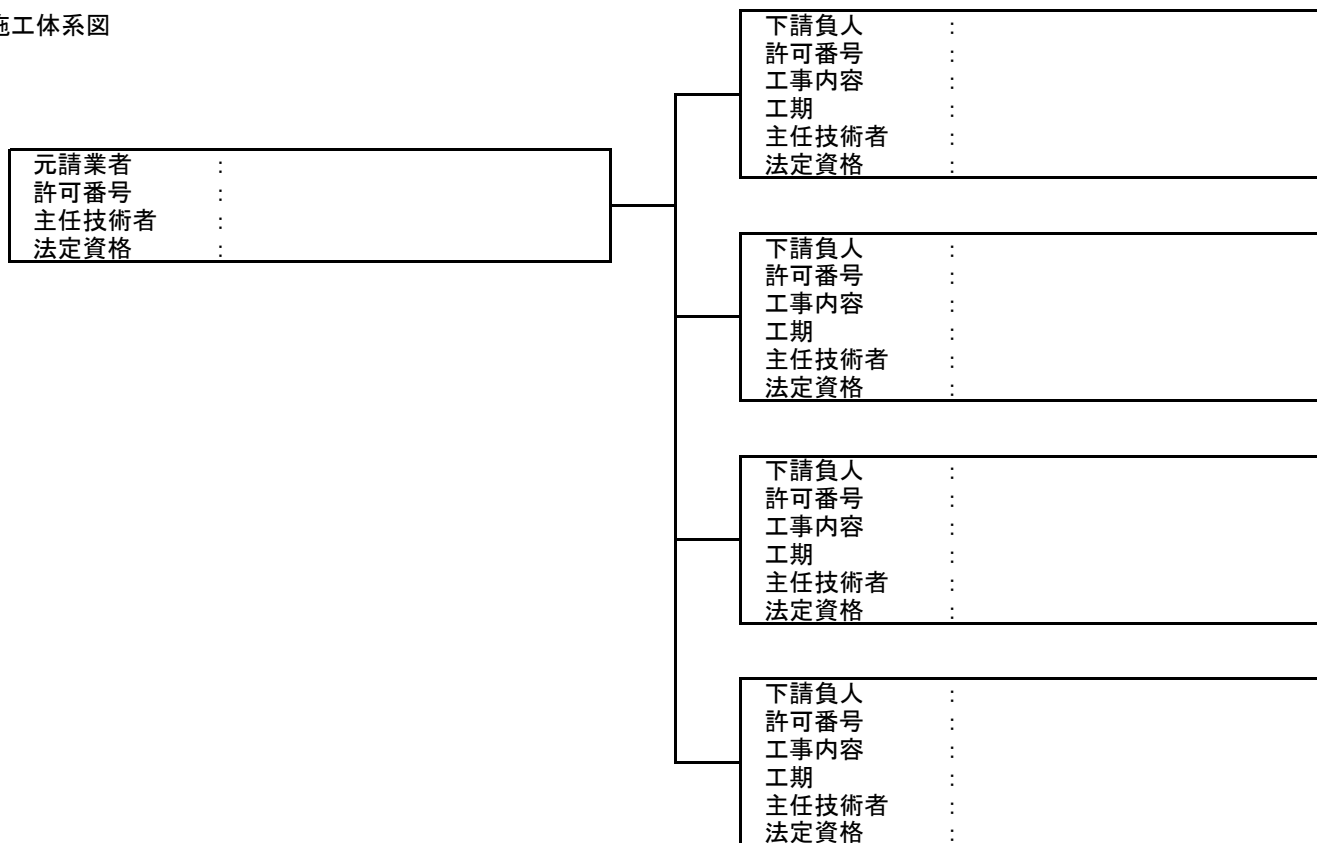
工事名称			
工事場所	福山市	町 地内	
請負金額	¥	-	(内消費税額¥ -)
工 期	着手	年	月 日
	完成	年	月 日
発注者	福山市上下水道事業管理者（工務部 ○○○○課） 担当者 技師 （TEL - ）		
受注者	(所在地)		
中間検査 指定工程			
	名 前	法定資格 証明書発行番号	経 歴
現場代理人			
主任（監理）技術者			
工事内容			

3. 現場組織表

(1) 現場組織表



(2) 施工体系図



(3) 工事外注計画

会社名	工事内容	区分	請負金額
〇〇建設(株)	管路土工	1次	千円
			千円
			千円
			千円
合計			千円

10. 段階確認に関する事項

段階確認

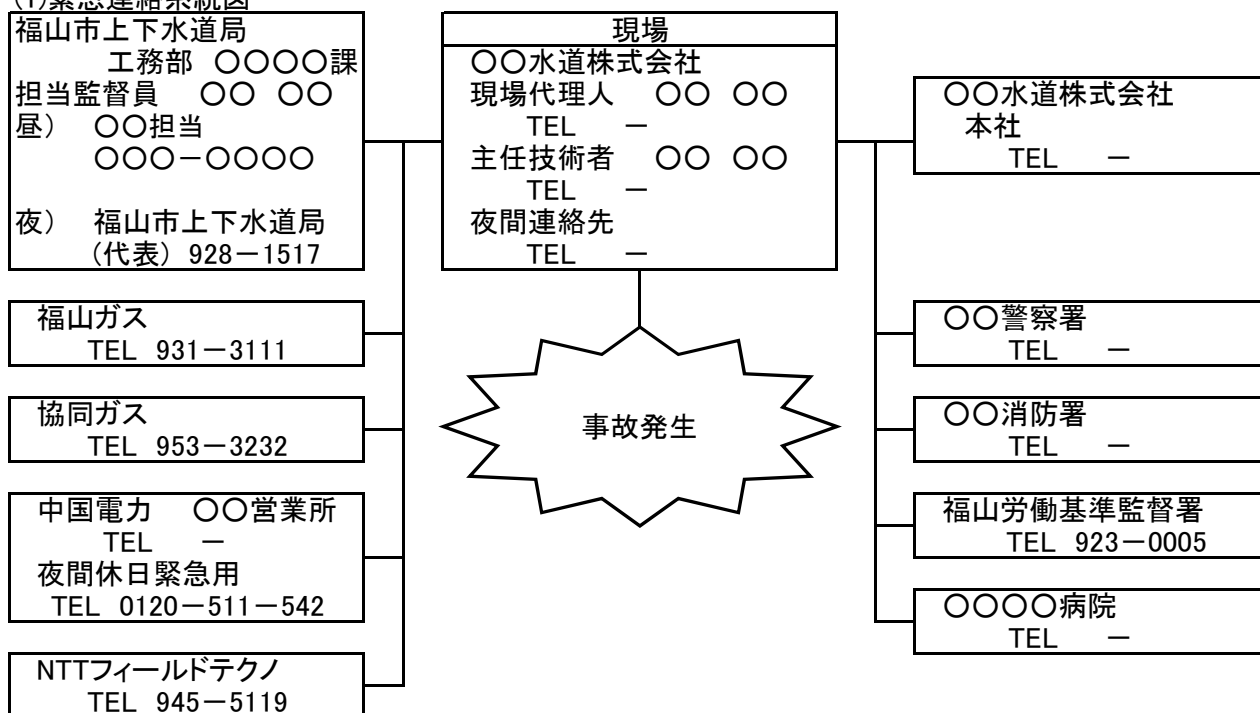
段階確認項目	種 類	頻度	確認時期	施工予定時期
〇〇工		〇回	施工前	

立会計画

立会項目	種 類	頻度	確認時期	立会予定時期
〇〇工		〇回	施工完了後	

11. 緊急時の体制及び対応

(1)緊急連絡系統図



関連業者名

会社名	工種	担当者	電話番号

(2)休日・夜間連絡先

職種	氏名	会社名	緊急連絡先

(3)災害対策組織図

災害対策責任者	副災害対策責任者	情報連絡係	
		対策係	
		庶務係	

(4)防災対策

作業禁止条件: 警報発令時, 地震深度〇以上, 雨量〇〇mm/h以上

状況	取組内容
平常時	
注意報発令時	
警報発令時	

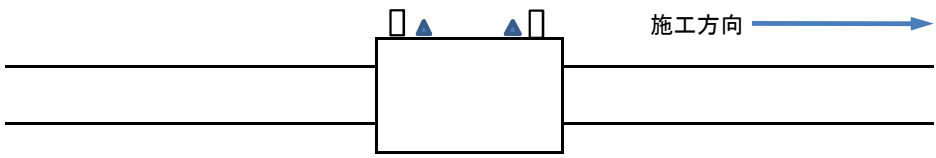
出来形管理表

管理 図番	測定項目				工区 (その)								
	工種	項目	記号	規格値									
					管種								
					管径								
	現況地盤	基準高	GL		設計値								
					施工後 偏差								
	舗装取壊し	取壊幅	w		設計値								
					実測値								
					偏差								
		舗装厚	d		設計値								
					実測値								
					偏差								
	土工	掘削深 (床付高)	H1		設計値								
					実測値								
					偏差								
		床掘幅 (基礎幅)	W1	-50	設計値								
					実測値								
					偏差								
		基礎天	H2		設計値								
					実測値								
					偏差								
		基礎厚	H1-H2	-30	設計値								
					実測値								
					偏差								
		埋設深	DP	0~+50	設計値								
					実測値								
					偏差								
		管の位置	W	±30	設計値								
					実測値								
					偏差								
		埋戻天① (1層目)	H4		設計値								
					実測値								
					偏差								
		埋戻天② (2層目)	H5		設計値								
					実測値								
					偏差								
		埋戻天③ (3層目)	H6		設計値								
					実測値								
					偏差								
		路床天 (明示帯)-t)	h1		設計値								
					実測値								
					偏差								
	下層路盤	路盤幅	W2	-50	設計値								
					実測値								
					偏差								
		路盤天	h2		設計値								
					実測値								
					偏差								
		路盤厚	h1-h2	-45	設計値								
					実測値								
					偏差								
	上層路盤	路盤幅	W3	-50	設計値								
					実測値								
					偏差								
		路盤天	h3		設計値								
					実測値								
					偏差								
		路盤厚	h2-h3	-30	設計値								
					実測値								
					偏差								
	表層 (仮復旧)	舗装幅	W5	-25	設計値								
					実測値								
					偏差								
		舗装天	FH		設計値								
					実測値								
					偏差								
		舗装厚	h5	-9	設計値								
					実測値								
					偏差								

出来形管理表

測定項目				工区 (その他)						
工種	項目	記号	規格値							
				弁栓種類別						
				管種						
				管径						
	基準高	GL	±30	設計値						
				施工後						
				偏差						
舗装取壊し	取壊幅	w		設計値						
				実測値						
				偏差						
	舗装厚	d		設計値						
				実測値						
				偏差						
土工	掘削深 (床付高)	H1		設計値						
				実測値						
				偏差						
	床堀幅 (管路方向)	W1		設計値						
				実測値						
				偏差						
	床堀幅 (基礎幅) (管直角方向)	W2	-50	設計値						
				実測値						
				偏差						
	基礎天	H2		設計値						
				実測値						
				偏差						
	基礎厚	H1-H2	-30	設計値						
				実測値						
				偏差						
	底板天	H3		設計値						
				実測値						
				偏差						
	底板寸法			設計値						
				実測値						
				偏差						
	埋設深	DP	0~+50	設計値						
				実測値						
				偏差						
	壁天高	h1		設計値						
				実測値						
				偏差						
	壁高	h2		設計値						
				実測値						
				偏差						
	中心の位置 (管路方向)			設計値						
				実測値						
				偏差						
	中心の位置 (管直角方向)			設計値						
				実測値						
				偏差						
	弁棒の深さ (吐出口深さ)		-(150~250)	設計値						
				実測値						
				偏差						
	クレーン リヤの 深さ	GL-	-150	設計値						
				実測値						
				偏差						
				設計値						
				実測値						
				偏差						
				設計値						
				実測値						
				偏差						

EFソケット接合チェックシート

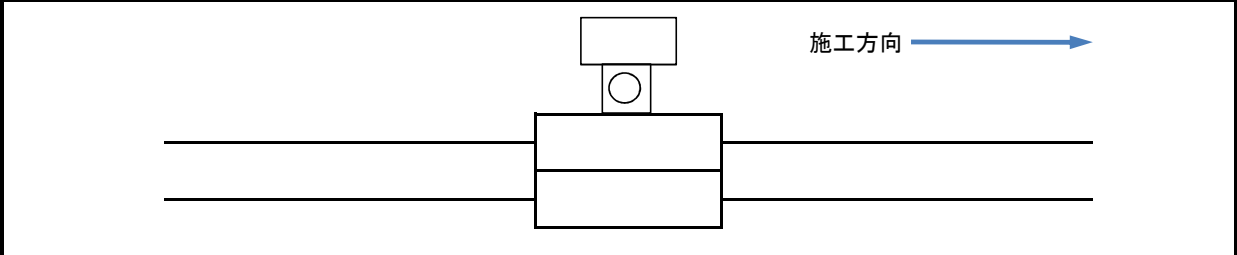
工事名																	
工区																	
請負業者名																	
配管図No.																	
測点No.																	
呼び径 (mm)	φ 50 ・ φ 75 ・ φ 100 ・ φ 150																
				(施工年月日: 年 月 日)													
		配管従事者		主任技術者		現場代理人											
継手施工者()																	
発電機の仕様				コントローラーの仕様													
正常作動確認				正常作動確認													
																	
継手 No.																	
及び形状																	
略 図	直管及び切管寸法は必ず記入のこと(cm)																
天 候																	
写真の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無										
陸継ぎの有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無										
曲げ施工の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無										
湧水の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無										
管の点検・清掃	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否										
スクレープ	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否										
エタノール(アセトン)清掃	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否										
標線の確認	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否										
通電開始時刻	: :	: :	: :	: :	: :	: :	: :										
通電終了時刻	: :	: :	: :	: :	: :	: :	: :										
インジケータの確認	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否	良 否										
クランプ取り外し時刻	: :	: :	: :	: :	: :	: :	: :										
埋戻し開始時刻	: :	: :	: :	: :	: :	: :	: :										
接合総合判定	合 否	合 否	合 否	合 否	合 否	合 否	合 否										
備考:																	
<table border="1" style="display: inline-table; margin-left: auto;"> <tr> <td>呼び径</td> <td>50</td> <td>75</td> <td>100</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>冷却時間(分)</td> <td>5</td> <td colspan="3">10</td> </tr> </table>								呼び径	50	75	100	150	冷却時間(分)	5	10		
呼び径	50	75	100	150													
冷却時間(分)	5	10															

清掃時にエタノールを使用する場合は純度95%以上のものを使用し、融着の際には十分乾燥してから実施する。
 清掃は素手で、専用のペーパータオルを使用する。エタノール・アセトンが長時間皮膚に触れないように注意する。
 エタノール・アセトンは消防法の危険物に該当。保管にあたっては、法令及び地方自治体の条例を遵守。

EFサドル接合チェックシート

工事名			(施工年月日: 年 月 日)					
工区								
請負業者名						配管従事者	主任技術者	現場代理人
配管図No. 測点No.								
呼び径 (mm)	φ 50 ・ φ 75 ・ φ 100 ・ φ 150	継手施工者()						

発電機の仕様		コントローラーの仕様	
正常作動確認		正常作動確認	



継手 No. 及び形状							

略図	直管及び切管寸法は必ず記入のこと(cm)						
----	----------------------	--	--	--	--	--	--

天候							
写真の有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無
陸継ぎの有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無
湧水の有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無	有無
管の点検・清掃	良否	良否	良否	良否	良否	良否	良否
スクレープ	良否	良否	良否	良否	良否	良否	良否
エタノール(アセトン)清掃	良否	良否	良否	良否	良否	良否	良否
標線の確認	良否	良否	良否	良否	良否	良否	良否
通電開始時刻	:	:	:	:	:	:	:
通電終了時刻	:	:	:	:	:	:	:
インジケータの確認	良否	良否	良否	良否	良否	良否	良否
クランプ取り外し時刻	:	:	:	:	:	:	:
埋戻し開始時刻	:	:	:	:	:	:	:
接合総合判定	合否	合否	合否	合否	合否	合否	合否

EFサドル	クボタケミックス	積水化学
接続端子タイプ	アダプタ4.0	アダプタ4.7
冷却時間(分)	10	5

分水栓付EFサドル	クボタケミックス	積水化学
接続端子タイプ	アダプタ4.0	アダプタ4.7
冷却時間(分)	10	5

清掃時にエタノールを使用する場合は純度95%以上のものを使用し、融着の際には十分乾燥してから実施する。
 清掃は素手で、専用のペーパータオルを使用する。エタノール・アセトンが長時間皮膚に触れないように注意する。
 エタノール・アセトンは消防法の危険物に該当。保管にあたっては、法令及び地方自治体の条例を遵守。

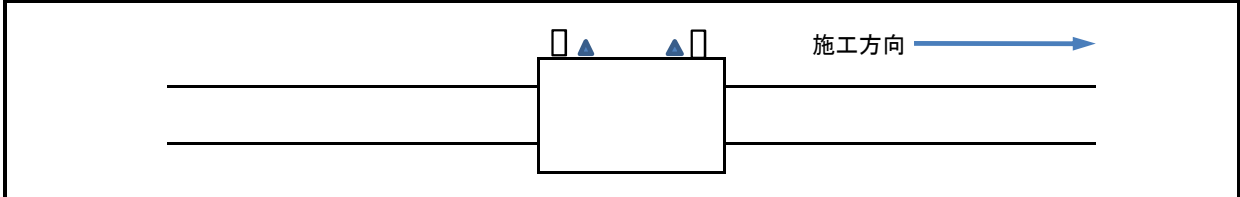
EFソケット接合チェックシート(記入例)

工事名 工 区	配水管布設及び布設替工事			(施工年月日: 2011年 6月 20日)		
請負業者名	〇〇水道株					
配管図No. 測 点 No.						
呼 び 径 (mm)	φ 50 ・ φ 75 ・ φ 100 ・ φ 150					

配管従事者	主任技術者	現場代理人
(印)	(印)	(印)

継手施工者(水道 太郎)

発 電 機 の 仕 様	単相100V	コントローラーの仕様	NISIO JWEF200N
正 常 作 動 確 認	(良) 否	正 常 作 動 確 認	(良) 否



継 手 No. 及 び 形 状	1	2	3				
	EFソケット φ 100	EFソケット φ 100	EFソケット φ 100				

略 図	直管及び切管寸法は必ず記入のこと(cm)						
-----	----------------------	--	--	--	--	--	--

天 候	晴れ	晴れ	晴れ				
写 真 の 有 無	有 (無)	(有) 無	(有) 無	有 無	有 無	有 無	有 無
陸 継 ぎ の 有 無	有 (無)	(有) 無	(有) 無	有 無	有 無	有 無	有 無
曲 げ 施 工 の 有 無	有 (無)	有 (無)	有 (無)	有 無	有 無	有 無	有 無
湧 水 の 有 無	有 (無)	有 (無)	有 (無)	有 無	有 無	有 無	有 無
管 の 点 検 ・ 清 掃	(良) 否	(良) 否	(良) 否	良 否	良 否	良 否	良 否
ス ク レ ー プ	(良) 否	(良) 否	(良) 否	良 否	良 否	良 否	良 否
エタノール(アセトン)清掃	(良) 否	(良) 否	(良) 否	良 否	良 否	良 否	良 否
標 線 の 確 認	(良) 否	(良) 否	(良) 否	良 否	良 否	良 否	良 否
通 電 開 始 時 刻	10 : 13	9 : 51	9 : 50	:	:	:	:
通 電 終 了 時 刻	10 : 25	10 : 05	10 : 02	:	:	:	:
インジケータの確認	(良) 否	(良) 否	(良) 否	良 否	良 否	良 否	良 否
クランプ取り外し時刻	10 : 36	10 : 18	10 : 15	:	:	:	:
埋戻し開始時刻	11 : 32	11 : 32	11 : 32	:	:	:	:
接 合 総 合 判 定	(合) 否	(合) 否	(合) 否	合 否	合 否	合 否	合 否

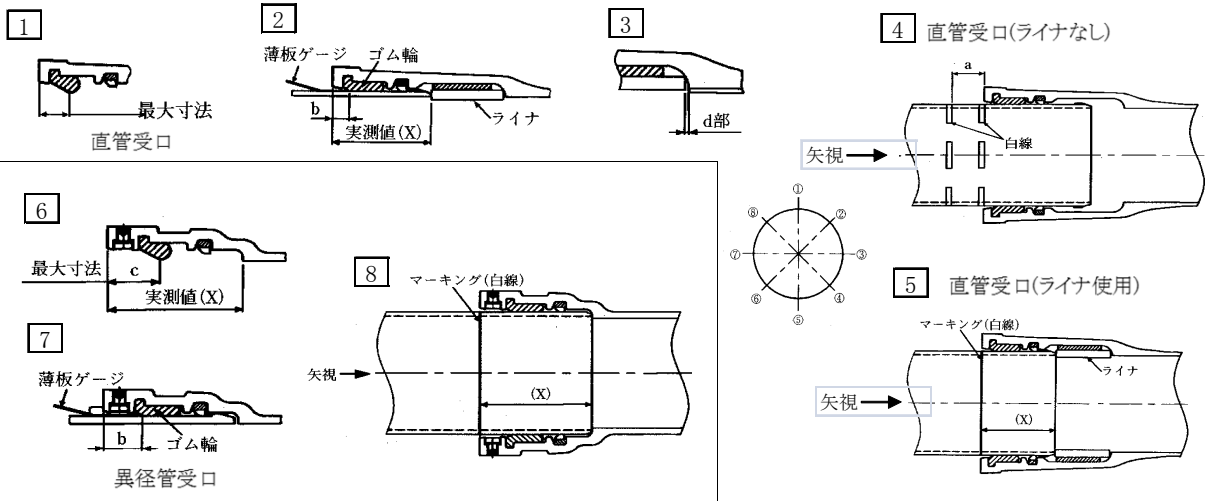
備考:

呼び径	50	75	100	150
冷却時間(分)	5	10		

清掃時にエタノールを使用する場合は純度95%以上のものを使用し、融着の際には十分乾燥してから実施する。
 清掃は素手で、専用のペーパータオルを使用する。エタノール・アセトンが長時間皮膚に触れないように注意する。
 エタノール・アセトンは消防法の危険物に該当。保管にあたっては、法令及び地方自治体の条例を遵守。

NS形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管(φ75～φ250)共通】

工事名		(No.)		
工 区		配管従事者	主任技術者	現場代理人
配管図No.				
測 点 No.				
呼び径・管種		継手施工者()		



施工月日								
管の種類								
略 図/ライナ								
継 手 No.								-
管 内 確 認								-
清 掃								-
滑 剤								-
受口溝(ロックリング)の確認								-
受口端面～ゴム輪の最大寸法(c)								1 6
受口端面～ゴム輪 間隔(b)	全周チェック							
	①							
	②							
	③							
	④							2 7
	⑤							
	⑥							
	⑦							
受端面～白線 間隔(a)	①							
	③							4
	⑤							
	⑦							
ライナ位置の確認(d部) ^{※1}								3
マーキング(白線)位置の確認 ^{※2}								5 8
屈曲防止リングの確認 ^{※3}								8
判 定								
備 考								

判定基準： 受口端面～ゴム輪間隔(b) < 受口端面～ゴム輪の最大寸法(c)

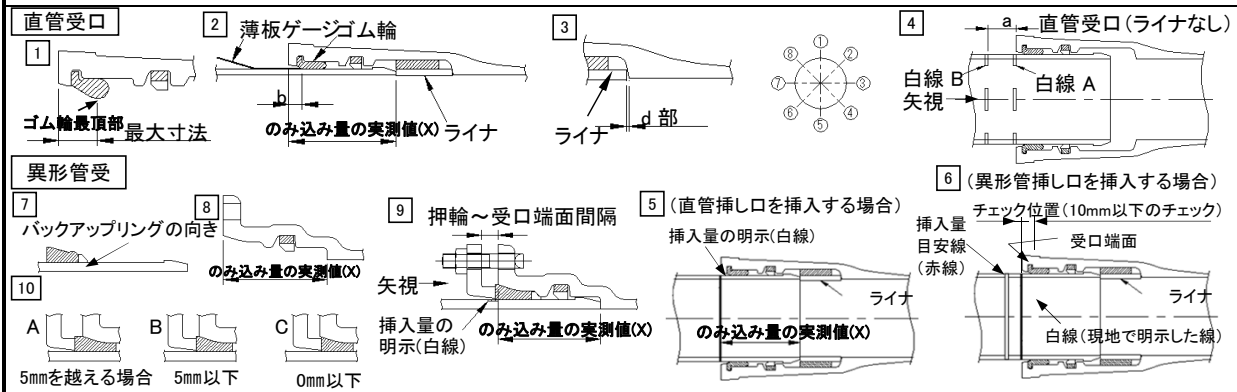
※1 ライナが受口奥部に当たっている事を、4.5mmの隙間ゲージにて確認する。

※2 接合直後に、マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。

※3 屈曲防止リングと挿し口外面に薄板ゲージが入らないこと。

N S 形 継 手 チェック シート【直管・ライナ・異形管 (φ 300 ~ φ 450) 共通】

工事名		(No.)		
工 区		配管従事者	主任技術者	現場代理人
配管図No.				
測 点 No.				
呼び径・管種		継手施工者 ()		



施工月日									
管 No									
管の種類									
略 図/ライナ									

継 手 No.										—
管 内 確 認										—
清 掃 剤										—
受口溝(ロックリング)の確認										—
バックアップリングの向き ^{※6}										7
受口端面～ゴム輪の最大寸法確認(c)										1
受口端面～ゴム輪 間隔(b) (mm)	全周チェック									2
	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
	⑦									
ボルト	数									—
	トルクN・m									—
押輪～受口端面 間隔 ^{※7}	①									9
	③									
	⑤									
	⑦									
受口端面～白線 間隔(a) (mm)	①									4
	③									
	⑤									
	⑦									
ゴム輪の 出入状態 ^{※8}	①									10
	③									
	⑤									
	⑦									
ライナ位置の確認(d部) ^{※1}										3
マーキング(白線)位置の確認 ^{※2}										5 9
挿し口の抜け出しチェック(異形管受口) ^{※3}										—
挿入量目安線(赤線)と受口端面距離の確認(異形管挿し口) ^{※4}										6
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口) ^{※5}										6
判 定										—
備 考	施工 :									—

判定基準: 受口端面～ゴム輪間隔(b) < 受口端面～ゴム輪の最大寸法(c)

※1 ライナが受口奥部に当たっていることを、4.5mmの隙間ゲージにて確認する。 ※7 押輪～受口端面間隔 : 最大値-最小値 ≤ 5mm (同一円周上)

※2 接合直後に、マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。 ※8 ゴム輪の出入状態: 同一円周上にA, C又はA, B, Cが同時に存在しないこと。

※3 挿し口を異形管受口に挿入し、ストップを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。

※4 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。

※5 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。

※6 バックアップリングの向き: テーパー部が挿し口端面側にあること、切断部は受口内面切欠き部をさけた位置にあること。

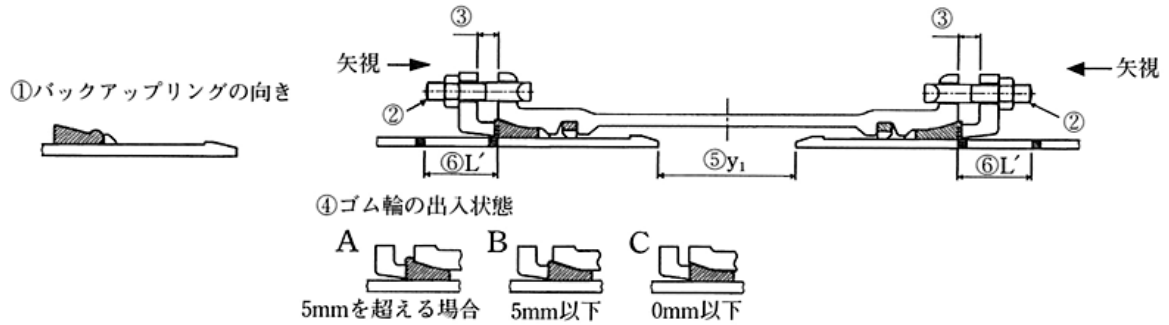
NS形継ぎ輪チェックシート(φ75~φ450)

年 月 日

工 事 名	
工 区	
配 管 図 No.	
測 点 No.	
呼び径・管種	

配管従事者	主任技術者	現場代理人

継手施工者 ()



管 No.および形状	
略 図	

管 内 確 認		
清 掃		
滑 材		
受口溝(ロックリング)の確認		
① バックアップリングの向き		
② ボルト	数	
	トルク N・m	
③ 押輪~受口 間 隔	上	
	右	
	下	
④ ゴム輪の 出入状況	左	
	上	
	右	
⑤ 両挿し口端の 間 隔 (y1)	下	
	左	
	上	
⑥ L' 受口端面~ 白線の間隔	右	
	下	
	左	
判 定		

備考

1. 白線表示の位置

単位 mm

呼び径	l1
75	165
100	170
150	195
200	195
250	195
300	230
350	240
400	240
450	245

2. 両挿し口端間隔(y1)

単位 mm

呼び径	y1
75,100	220
150~250	250
300~450	300

3. L' 寸法(y1の場合)

単位 mm

呼び径	75	100	150~250	300	350,400	450
L'	80	85	100	150	160	165

備 考
せめ配管

判定基準 ①バックアップリングの向き：テーパ部が挿し口端面側にあること。

③押輪~受口間隔：最大値-最小値≤5mm (同一円周上)

④ゴム輪の出入状況：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

注) ⑤は、一方から配管する場合には記入不要。⑥は、せめ配管の場合には記入不要。

NS形継手チェックシート(φ500～φ1000)

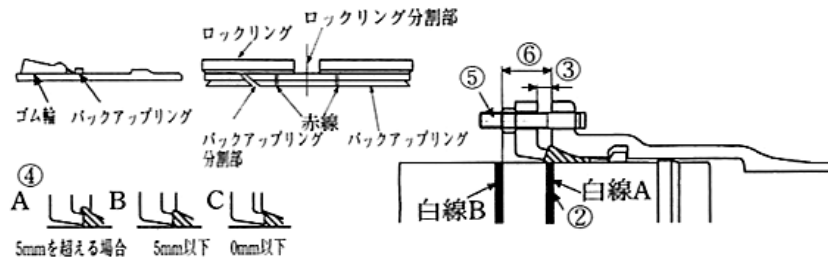
年 月 日

工 事 名	
工 区	
配 管 図 No.	
測 点 No.	
呼び径・管種	

配管従事者	主任技術者	現場代理人	

継手施工者 ()

①バックアップリングの向き、分割部の位置



単位mm

呼び径	X
500	31
600	31
700	32
800	32
900	32
1000	33

管No. および形状							
略 図							
管 内 確 認							
清 掃							
滑 剤 の 塗 布							
①バックアップリングの向き、 分割部の位置	(1)						
	(2)						
② 挿入量確認	上						
	右						
	下						
	左						
③ 押輪～受口間隔	上						
	右						
	下						
	左						
④ ゴム輪の出入状態	上						
	右						
	下						
	左						
⑤ボルト	数						
	トルク						
⑥ 白線B～受口間隔	上						
	右						
	下						
	左						
判 定							

判定基準：①バックアップリングの向き、分割部の位置：(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

②挿入量確認：白線Aの中に受口端面があること。

③押輪～受口間隔：最大値-最小値≤5mm (同一円周上)

④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと

⑤白線B～受口間隔：最大値-最小値≤X (X：上表参照)

NS形継ぎ輪チェックシート(φ500～φ1000)

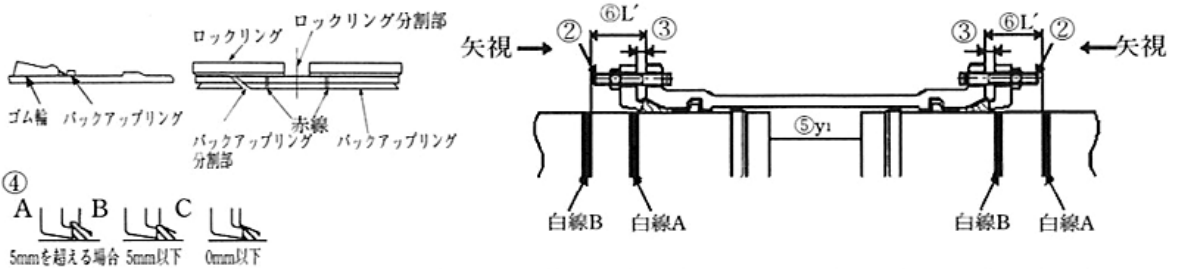
年 月 日

工事名	
工 区	
配管図 No.	
測 点 No.	
呼び径・管種	

配管従事者	主任技術者	現場代理人	

継手施工者 ()

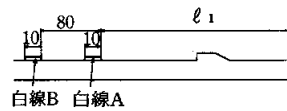
①バックアップリングの向き、分割部の位置



管No. および形状					
略 図					

管内確認					
清 掃					
滑 剤 の 塗 布					
①バックアップリングの向き、分割部の位置	(1)				
	(2)				
②ボルト	数				
	トルク				
③押輪～受口間隔	上				
	右				
	下				
	左				
④ゴム輪の出入状態	上				
	右				
	下				
	左				
⑤両挿し口端の間隔 (y ₁)	上				
	右				
	下				
	左				
⑥L'	上				
	右				
	下				
	左				
判 定					

備考
1. 白線表示の位置



単位mm	
呼び径	l ₁
500	220
600	220
700	257
800	265
900	265
1000	268

2. 両挿し口端間隔 (y₁)
およびL'寸法(y₁の場合)

単位mm		
呼び径	y ₁	L'
500	260	105
600	260	105
700	300	87
800	305	98
900	305	98
1000	310	103

判定基準：①バックアップリングの向き、分割部の位置：(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

②押輪～受口間隔：最大値－最小値≤5mm (同一円周上)

③ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと

注) 両挿し口端の間隔 (y₁) は、一方から配管する場合には記入不要。L' (受口端面～白線の間隔) は、せめ配管の場合には記入不要。

NS形継手 (ライナ使用、異形管) チェックシート (φ500~φ1000)

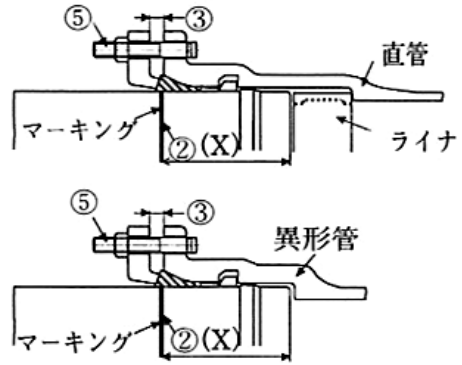
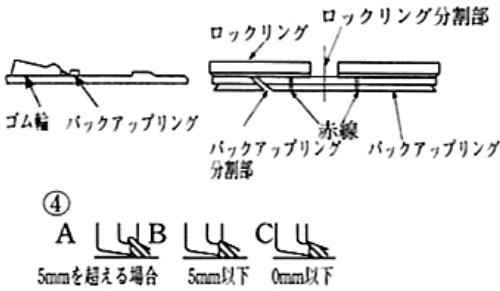
年 月 日

工 事 名	
工 区	
配 管 図 No.	
測 点 No.	
呼 び 径 ・ 管 種	

配管従事者	主任技術者	現場代理人

継手施工者 ()

①バックアップリングの向き、分割部の位置



管 No. および形状									
略 図									
管 内 確 認									
清 掃									
滑 剤 の 塗 布									
抜 け 出 し チェ ッ ク									
①バックアップリングの向き、 分割部の位置	(1)								
	(2)								
② 挿入位置の確認	上								
	右								
	下								
	左								
③ 押輪～受口間隔	上								
	右								
	下								
	左								
④ ゴム輪の出入状態	上								
	右								
	下								
	左								
⑤ボルト	数								
	トルク								
判 定									

判定基準：①バックアップリングの向き、分割部の位置：(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。
 ②挿入位置の確認：現場で明示した白線上に受口端面があること
 ③押輪～受口間隔：最大値-最小値≤5mm (同一円周上)
 ④ゴム輪の出入状態：同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと

様式12号

管NO.及び形状	管に製造番号が表示されている場合記入する。表示がない場合、管に通し番号又は管理番号を記入する					
略 図	<p>NS形 ライナー有 切管(ライナー無) 切管(ライナー有)</p>					
継手 NO	配管図に継手の管理番号を記入し管理している場合、その番号を記入する					
管内確認	管内に異物が無いか確認した場合「○」、「OK」					
清 掃	受口溝内の清掃、ゴム輪の清掃 すべて清掃した場合「○」、「OK」					
滑 材	滑材はダクタイル鉄管継手用滑材を使用し受口ゴム輪当り面、挿口外面の端面から白線までの範囲にムラなく塗布する。 施工要領書に基づき、塗布完了した場合 「○」、「OK」と記入					
受口溝	ロックリング芯だし用ゴム、ロックリングが所定の位置に正しく装着されている場合、「○」、「OK」と記入					
受口端面 ～ ゴム輪 の間隔	<p>受口と挿し口の隙間に薄板ゲージを図の①' ②③' ④⑤' ⑥⑦' ⑧に挿入し一部分だけ大きく入り込まないことを確認し、入り込み量を測定し記入する。ゲージの入り込み量が他の部分に比べて異常に大きい場合は解体して再接合する。</p> <p>(判定の目安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム輪装着後、受口面から、ゴム輪の一番高いところまでの距離を測定する(仮測定) ・挿し口挿入後入り込み量を測定し仮測定値以下であることを確認する。 					
④受口端面 ～ 白線の間隔(A) 胴付間隔(X)	受口端面と白線までの間隔Aを4箇所測定し、その値が下表の値であることを確認する。また間隔A及び胴付間隔(X)が許容値を超える場合は、継手を解体し再度施工する。この場合、ゴム輪は新しいものと交換する。					
	呼び径(mm)	許容曲げ角度(θ)	A寸法の差≦胴付間隔 X 許容値(mm)	管1本当りに許容される偏位 δ (cm)		
				4m管	5m管	6m管
	75	4° 00'	6	28	-	-
	100	4° 00'	8	28	-	-
	150	4° 00'	12	-	35	-
	200	4° 00'	15	-	35	-
	250	4° 00'	19	-	35	-
	300	3° 00'	17	-	-	31
	350	3° 00'	20	-	-	31
	400	3° 00'	22	-	-	31
	450	3° 00'	25	-	-	31
	500	3° 20'	31	-	-	35
	600	2° 50'	31	-	-	29
700	2° 30'	32	-	-	26	
800	2° 10'	32	-	-	22	
判定	総合的に接合の結果を評価し、すべてが条件を満たしている場合、「OK」、又は「○」を記入する。					

G X 形継手チェックシート 【直管・異形管・G-L i n k 共通】

(No.)

工 事 名	
工 区	
配 管 図 No.	
測 点 No.	
管 種 ・ 呼 び 径	

配管従事者	主任技術者	現場代理人
継手施工者 ()		

直管

1 チェックゲージ

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
400	14~25

2

3 (直管挿し口を挿入する場合)

異形管・G-Link

5

7

9

6

8

10 G-Linkを使用する場合

4 (異形管挿し口、P-Linkを挿入する場合)

共通	施工 月 日								
	管の種類								
	略図 / ライナ								
	継 手 No.								-
	挿し口突部の有無 ※1								-
	管 内 確 認								-
清 掃								-	
滑 剤								-	

直管	挿し口挿入量の明示(直管挿し口)									3	
	受口溝(ロックリング)の確認									-	
	受口面～ゴム輪間隔 (b) ※2	全周チェック									1
		1									
		2									
		3									
		4									
		5									
		6									
	受口端面～白線間隔 (a)	1									2
		3									
		5									
	ライナ位置の確認 (d部) ※3										3
マーキング (白線) 位置の確認(直管挿し口) ※4										3	
挿入量目安線 (赤線) と受口端面間距離の確認 (異形管挿し口) ※5										4	
マーキング (白線) の明示 (異形管挿し口) ※6										4	

異形管・G-Link	挿し口挿入量の明示									5・6	
	爪、押しボルトの確認 (G-Link)									-	
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認									7	
	ストッパ、ロックリングの確認									8	
	抜け出しチェック (挿し口突部有) ※7									-	
	T頭ボルト	本 数									9
	受口端面～施工管理用突部の隙間 ※8	箇所数									9
		隙間ゲージ確認									
押しボルト	本 数									10	
	トルク確認										

共通	判 定									-
	備 考									

判定基準:

- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
- ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
- ※3 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
- ※4 接合直後にマーキング (白線) 位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
- ※5 挿入量目安線 (赤線) と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
- ※6 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
- ※7 挿し口を異形管受口に挿入し、ストッパを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。
- ※8 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

G X形継手チェックシート【直管・異形管・G-L i n k 共通】

(No.)

工事名	配水管布設工事 (〇〇〇-〇)
配管図 No.	Sect1~Sect1+20
測点 No.	
管種・呼び径	G X形φ100

配管従事者	主任技術者	現場代理人
福山	水道	福山
継手施工者 (福山 太郎)		

直管

1 チェックゲージ

b: チェックゲージの入り込み量

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
400	14~25

5 異形管・Gリンク

7 押輪またはG-Link

6 のみ込み量の実測値 (X)

8 スTOPPAを引き抜く

施工月日を記入する。

管の種類(直管・切管・曲管・バルブ等)を記入する。

略図を記入する。

継手No.を記入する。

挿し口突部の有無を記載する。

管内に異物が無いことを確認したら○をする。

挿口・受口に付着している異物をきれいに取り除くことを実施したら○を記入する。

滑剤の塗布を正確に実施したら○を記入する。

施工月日	〇月〇日	〇月〇日	〇月〇日	〇月〇日	ライナ(直管挿し口)・切管を使用する際、マーキング(白線)が現地で明示されていれば○を記入する。(実測値X)
管の種類	直管	乙切2.5	受挿仕切弁	直管	
略図 / ライナ					

継手 No.	1	2	3						
挿し口突部の有無 ※1	有	無	有						
管内確認	○	○	○						
清掃	○	○	○						
滑剤	○	○	○						

直管	挿し口挿入量の明示(直管挿し口)	○	○	○							
	受口溝(ロックリング)の確認	○	○	○							
	受口面～ゴム輪間隔 (b) ※2	全周チェック	○	○	○						
		1	15	○	○						
		2	16	○	○						
		3	15	○	○						
		4	14	○	○						
		5	15	○	○						
		6	16	○	○						
		7	15	○	○						
	受口端面～白線間隔 (a)	1	75	○	○						
		3	74	○	○						
		5	74	○	○						
	ライナ位置の確認 (d部) ※3	○	○	○							
	マーキング(白線)位置の確認(直管挿し口) ※4	○	○	○							
挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口) ※5	○	○	○								
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口) ※6	○	○	○								

異形管・Gリンク	挿し口挿入量の明示	○	○	○						
	爪、押しボルトの確認 (G-Link)	○	○	○						
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認	○	○	○						
	STOPPA、ロックリングの確認	○	○	○						
	抜け出しチェック(挿し口突部有) ※7	○	○	○						
	T頭ボルト	本数	○	4	○					
	受口端面～施工管理用突部の隙間 ※8	箇所数	○	4	○					
		隙間ゲージ確認	○	○	○					
押ボルト	本数	○	4	○						
	トルク確認	○	○	○						

共通	判定	○	○	○						
備考		○	○	○						

判定基準:

- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
- ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴ
- ※3 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
- ※4 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
- ※5 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
- ※6 挿し口外周～受口端面位置の白線を表示したか確認する。
- ※7 挿し口を異形管受口に挿入し、STOPPAを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認・実測結果等が良好であれば○を記入する。
- ※8 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

G X形継手チェックシート【P-Link・継輪共通】

(No.)

工事名	
工区	
配管図 No.	
測点 No.	
管種・呼び径	

配管従事者	主任技術者	現場代理人

継手施工者 ()

Pリンク

1 締め付けトルク：100N・m
チェックゲージ
b
ゴム輪（直管用）

2 締め付けトルク：100N・m
a
実測値 (X)
黄線
白線（現地で明示した線）

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	54~63
100	57~66
150	57~66
200	63~72
250	63~72
300	70~80

継輪

3 L'
y1
白線B
上
左 右

(i) 一方から順次配管していく場合

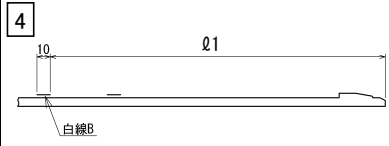
呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
400	150

共通	施工月日				
	管の種類				
	略図 / ライナ				
	継手 No.				—
	挿し口突部の有無 ※1				—
	管内確認				—
	清掃				—
	滑剤				—

(ii) せめ配管の場合

呼び径	y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
400	300

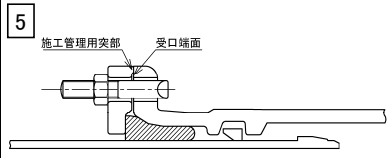
Pリンク	挿し口挿入量の明示					2	
	受口面～ゴム輪間隔 (b) ※2	爪、押しボルトの確認 (P-Link)					—
		全周チェック					
		1					
		2					
		3					
		4					1
		5					
		6					
	7						
8							
押ボルト	本数					2	
	トルク確認						
	マーキング（白線）位置の確認※3					2	



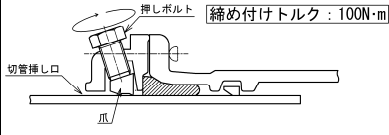
白線Bの位置

呼び径	Q1
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275
300	305
400	320

継輪	切管挿し口の白線Bの明示					4	
	爪、押しボルトの確認 (G-Link)					—	
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認					—	
	ストップ、ロックリングの確認					—	
	受口端面～白線の間隔 (L') ※5	上					
		右					
		下					
	両挿し口端の間隔 (y1) ※5	左					
		上					3
		右					
T頭ボルト	本数						
	箇所数						
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※4	隙間ゲージ確認					5	
	押ボルト	本数					
	トルク確認						



G-Linkを使用する場合



共通	判定					
	備考					

判定基準：

- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
- ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であること。
- ※3 接合直後にマーキング（白線）位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
- ※4 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
- ※5 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

G X形継手チェックシート【P-Link・継輪共通】

工事名	配水管布設工事 (〇〇〇-〇)
配管図No.	Sect1~Sect1+20
測点No.	
管種・呼び径	G X形φ100

(No.)		
配管従事者	主任技術者	現場代理人
福山	水道	福山

継手施工者 (福山 太郎)

Pリンク		継輪															
1		<table border="1"> <caption>b寸法の合格範囲</caption> <tr> <th>呼び径</th> <th>合格範囲 (mm)</th> </tr> <tr> <td>75</td> <td>54~63</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>57~66</td> </tr> <tr> <td>150</td> <td>57~66</td> </tr> <tr> <td>200</td> <td>63~72</td> </tr> <tr> <td>250</td> <td>63~72</td> </tr> <tr> <td>300</td> <td>70~80</td> </tr> </table>	呼び径	合格範囲 (mm)	75	54~63	100	57~66	150	57~66	200	63~72	250	63~72	300	70~80	<p>施工月日を記入する。</p> <p>管の種類(直管・切管等)を記入する。</p> <p>略図を記入する。</p> <p>継手No.を記入する。</p> <p>挿し口突部の有無を記載する。</p> <p>管内に異物が無いことを確認したら○を記入する。</p> <p>挿し口・受口に付着している異物をきれいに取り除くことを実施したら○を記入する。</p> <p>滑剤の塗布を正確に実施したら○を記入する。</p>
呼び径	合格範囲 (mm)																
75	54~63																
100	57~66																
150	57~66																
200	63~72																
250	63~72																
300	70~80																
2			<p>切管を使用する際、マーキング(白線)が現地で明示されていれば○を記入する。(実測値X)</p> <p>P-Linkの爪、押しボルトが正常な位置にセットされていれば○を記入する。</p> <p>接合した継手の全周チェックの結果が良好なら○を記入する。 ※全周チェックは接合時に必ず実施するもの。</p> <p>b寸法の合格範囲内の値となる。</p> <p>押しボルトの本数を記入する。</p> <p>トルクの確認が出来たら○を記入する。</p> <p>接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。</p> <p>切管を使用する際、マーキング(白線B)が現地で明示されていれば○を記入する。</p> <p>G-Linkの爪、押しボルトが正常な位置にセットされていれば○を記入する。</p> <p>挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用する。</p> <p>ストップ、ロックリングが正常な位置にセットされていれば○を記入する。</p> <p>実測した寸法を記入する。</p> <p>実測した寸法を記入する。</p> <p>T頭ボルトの本数及び施工管理用突部の箇所数を記入する。</p> <p>押輪・G-Linkの施工管理用突部と受口端面に隙間がないことが確認が出来たら○を記入する。</p> <p>G-Linkを使用した場合、押しボルトの本数を記入し、トルクの確認が出来たら○を記入する。</p>														
共通	施工月日	○月△日	○月△日	○月△日	○月△日												
	管の種類	Pリンク	甲切1.5	甲切2.0	継輪												
	略図 / ライナ																
	継手 No.	6		10	—												
	挿し口突部の有無 ※1	無		無	—												
Pリンク	管内確認	○		○	—												
	清掃	○		○	—												
	滑剤	○		○	—												
	挿し口挿入量の明示	○			2												
	爪、押しボルトの確認 (P-Link)	○			—												
	受口面～ゴム輪間隔 (b) ※2	全周チェック	○			—											
		1	58			—											
		2	60			—											
		3	58			—											
		4	59			—											
5		58			—												
6		59			—												
7		60			—												
8	59			—													
押しボルト	本数	4			—												
	トルク確認	○			—												
マーキング(白線)位置の確認※3	○			—													
継輪	切管挿し口の白線Bの明示	—		○	4												
	爪、押しボルトの確認 (G-Link)	—		○	—												
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認	—		○	—												
	ストップ、ロックリングの確認	—		○	—												
	受口端面～白線の間隔 (L') ※5	上	—			—											
		右	—			—											
		下	—			—											
		左	—			—											
	両挿し口端の間隔 (y1) ※5	上	—		200	—											
		右	—		200	—											
下		—		200	—												
左		—		199	—												
T頭ボルト	本数	—		4	—												
	箇所数	—		4	—												
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※4	隙間ゲージ確認	—		○	—												
	押しボルト	本数	—	4	—												
	トルク確認	—		○	—												
共通	判定	○		○	—												
	備考				—												

判定基準:

- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
- ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であることを確認・実測結果等が良好であれば○を記入する。
- ※3 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面に付着している異物をきれいに取り除くことを実施したら○を記入する。
- ※4 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
- ※5 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

(様式15号)

PN形継手チェックシート

年 月 日

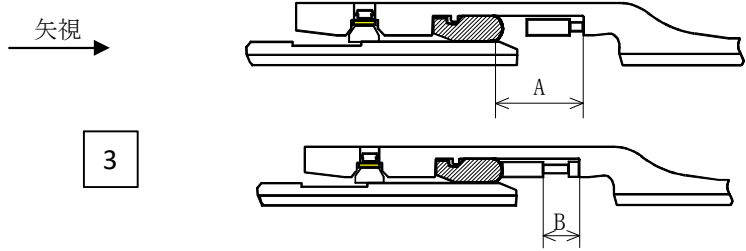
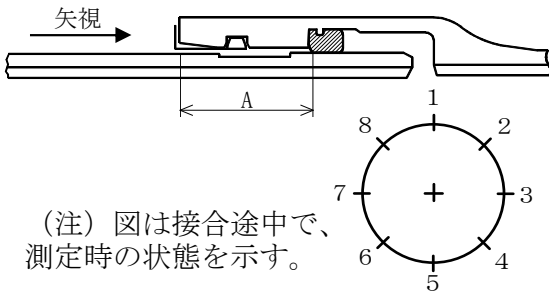
工事名 工 区	
配管図No. 測点No.	
呼び径・管種	

配管従事者	主任技術者	現場代理人

継手施工者 ()

1 【呼び径300～600】

2 【呼び径700～1500】



管No. および形状									
略 図									
継手No.									—
管 内 確 認									—
清 掃									—
ロックリング									—
スプリング数 ^{注1)}									—
滑 剤									—
受ローゴム輪 間隔 (A)	1								1
	2								
	3								
	4								2
	5								
	6								
	7								
	8								
押輪用ボルト	数								
	トルク								
受ロー押輪 間隔 (B)	1								3
	3								
	5								
	7								
判 定									

注1) スプリングがある呼び径は900～1500

(様式15号)

PN形継手チェックシート

年 月 日

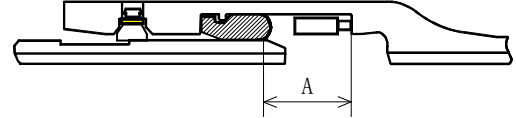
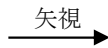
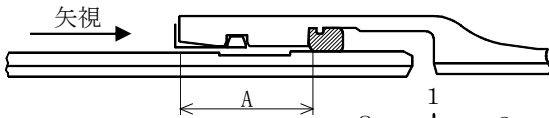
工事名 工 区	配水管布設工事(〇〇〇-〇)
配管図No. 測点No.	推進部
呼び径・管種	PN形 φ350

配管従事者	主任技術者	現場代理人
福山	水道	福山

継手施工者 (福山 太郎)

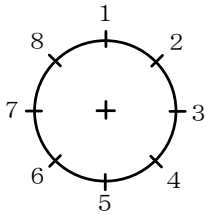
1 【呼び径300~600】

2 【呼び径700~1500】



3

(注) 図は接合途中で、測定時の状態を示す。



管No. および形状	①NS-PN 受挿短管	②直管	③直管								
略 図											
継手No.	1	2	3						—		
管内確認	○	○	○	←管内に異物が無いことを確認したら○を記入する。						—	
清掃	○	○	○	←接合要領書に従って、管を清掃したら○を記入する。						—	
ロックリング	○	○	○	←接合要領書に従って、ロックリングをセットしたら○を記入する。						—	
スプリング数 ^{注1)}				←セットしたスプリングの数を記入する。						—	
滑剤	○	○	○	←接合要領書に従って、滑剤を塗布したら○を記入する。						—	
受口ーゴム輪 間隔 (A)	1	124	121	121					1		
	2	124	121	122							
	3	124	122	122							
	4	121	123	125	←受口端面からゴム輪までの間隔A(mm)を記入する。						
	5	125	122	125					2		
	6	123	123	122							
	7	124	123	122							
	8	124	122	121							
押輪用ボルト	数				←締め付けたボルトの本数(本)を記入する。						
	トルク				←締め付けトルクを記入する。						
受口ー押輪 間隔 (B)	1								3		
	3				←受口ー押輪の間隔B(mm)を記入する。 ※全周均等になるよう締め付け。						
	5										
	7										
判定	○	○	○	←全てのチェック項目を満足していれば○を記入する。							

注1) スプリングがある呼び径は900~1500

官公庁の休日・夜間等の作業届

年 月 日

福山市上下水道事業管理者 様

所 在 地

商号又は名称

代 表 者 名

印

次のとおり官公庁の休日・夜間等の作業を実施したいので、届出します。

工事番号	第 号
工 事 名	工 事
工事期間	年 月 日 ～ 年 月 日
工事場所	
作 業 日	年 月 日 (曜日) : ～ :
作業人数	人程度
作業理由	
作業内容	
そ の 他	

※ 施工位置図 (別紙参照)

※ 緊急時の連絡体制を現場に常備します。

ゴールデンウィーク

盆 休暇における工事現場緊急時連絡体制
年 末 年 始

年 月 日

ゴールデンウィーク

盆 休暇期間中の緊急連絡体制及び現場保安体制を次のとおり報告します。
年 末 年 始

- ・ 工 事 名 配水管布設工事 (ー)
- ・ 工 事 場 所 福山市
- ・ 受 注 者
- ・ 現 場 代 理 人
- ・ 主任 (監理) 技術者
- ・ 休 暇 期 間 年 月 日 ~ 年 月 日
- ・ 巡 回 者

・ 緊 急 連 絡 先

名 前	会 社 名	緊 急 連 絡 先

・ 現 場 保 安 体 制

年 月 日

町内のみなさまへ

水道工事のお知らせ

この度、みなさまの町内の水道工事を行うことになりました。

つきましては、工事中は交通制限や機械の騒音、断水、減水及び赤水などでご迷惑をおかけいたします。

早期完成に向け努力しますので、何卒、ご理解ご協力をお願いいたします。

記

工事名	配水管布設工事（〇〇〇ー〇）			
工事場所	福山市〇〇〇町〇丁目 地内（別紙 地図のとおり）			
契約工期	平成	〇〇年	〇〇月	〇〇日 から
	平成	〇〇年	〇〇月	〇〇日 まで
工事期間	平成	〇〇年	〇〇月	〇〇日 から
	平成	〇〇年	〇〇月	〇〇日 まで
交通規制	車両通行止め （歩行者及び自転車は交通整理員により誘導します。）			
作業時間	午前9時から午後4時まで（作業時間以外は開放します。）			
施工業者	〇〇〇〇〇水道会社(株)		TEL084-000-0000	
			夜間	TEL084-000-0000
	現場代理人 〇〇〇〇〇			
発注者	福山市上下水道局〇〇〇課		〇〇担当	TEL 084-000-0000
			夜間	TEL 084-928-1517
その他	・交通整理員を配置し、交通の円滑と事故防止に努めます。 ・断水については、日程が決まり次第、事前に連絡いたします。			

2021年(令和3年) 月 日

水道ご利用のみなさまへ

福山市上下水道局
工務部〇〇〇〇課

水道工事に伴う宅地内掘削のご承諾について(お願い)

この度の水道工事に、ご理解ご協力をいただきまして有難うございます。
先日、ご案内させて頂きました水道工事に伴い、新しい給水管に切り替える工事を行うために、**宅地内の掘削のご承諾**をお願いします。

特に年数が経過した給水管は、漏水や断水の危険性が高まりますので、この機会に給水管を布設替えさせて頂きますようお願いいたします。

工事については、大変ご迷惑をお掛けしますが、本復旧(完成)するまでの間、ご寛容の程お願いいたします。

工 事 名 配水管布設工事(〇〇〇-〇)

工事場所 福山市 〇〇〇町〇丁目 地内

受注業者 〇〇〇〇〇水道会社(有) TEL 084-000-0000
現場代理人 〇〇 〇〇 夜間・休日 TEL 084-000-0000

発注者 福山市上下水道局 〇〇〇〇〇課 TEL 084-000-0000
〇〇〇〇担当 〇〇 夜間・休日 TEL 084-928-1517

宅地内の掘削を承諾します。

年 月 日

住所： _____

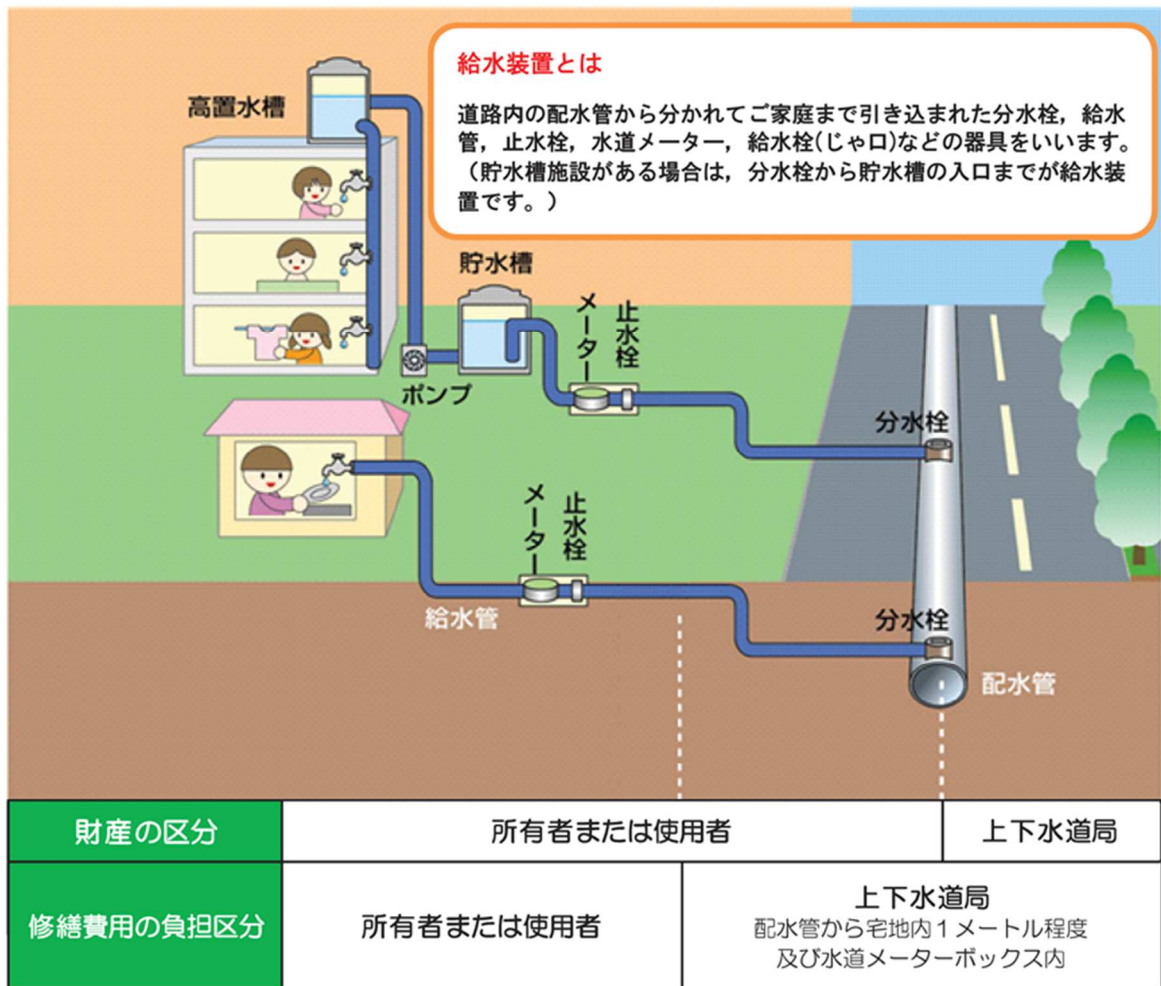
名前： _____ (印)

※宅内掘削後の復旧は、原形復旧(ただし、コンクリート・アスファルト・土のいずれか)となります。なお、コンクリート・アスファルトで復旧する場合、色味が違うこと・継ぎ目ができることはご了承ください。

裏面 給水管についての説明

1. 給水管は個人の財産です。

局配水管からの分岐箇所（分水栓）から**個人の財産**となります。



2. 給水管の修繕や配水管布設工事の給水管切替について

給水管が漏水した場合，または配水管布設工事の給水管切替について公道部分は，局負担で行います。宅地内については，官民境界から1m程度までは，宅地内掘削の承諾を頂いた場合，局負担で給水管を布設替えします。

ただし，宅地内の復旧で樹木，タイル舗装等局で復旧できない場合もあります。詳しくは，工事担当課へ問い合わせください。

3. 鉛製給水管について

福山市では，1981年（昭和56年）以降に鉛製給水管を使用していません。しかし，それ以前に建築された建物及び水道工事をされた場合は，配水管からご家庭に引込まれている給水管として使用されている可能性があります。

鉛製給水管は通常の使用状態では全く問題はありませんが，朝一番や長時間水道をお使いにならなかった場合，鉛の濃度が高くなる場合があります。念のためバケツ一杯程度をトイレ・散水など飲み水以外に使用されることをお勧めします。

また，鉛製給水管は布設後，経年劣化をしており漏水のリスクが高まっていますので，局が行う給水管の布設替えや家の増改築の際に，鉛製給水管の取替えをご検討ください。

断水のお知らせ

水道工事のため、次のとおり断水いたします。

大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

断水の予定時間（時間の表示は 24 時間表示です）

〇〇月 〇〇日（〇） 〇〇時〇〇分 から

〇〇月 〇〇日（〇） 〇〇時〇〇分 まで

※断水終了時間は工事の状況により多少前後する場合があります。

断水開始前、断水時間中にご注意いただくこと

○断水に備えて飲み水などを事前に“くみ置き”してください。

○断水時間中は必ず蛇口を閉めてください。

万が一ご使用されますと、“にごり水”により機器（トイレ・給湯器（エコキュート等）・浄水器等）が故障する場合があります。

断水終了後の水を使用される時にご注意いただくこと

○はじめに“にごり水”や“空気”が出ることがありますので、トイレ・給湯器・浄水器“以外”の蛇口で異常がないことを確認してから使用してください。

しばらく（2～3分程度）水を流していただくことで、きれいになります。

（水が“白くにごる”ことがありますが、空気と水が混じったものです。）

きれいにならない場合は、上下水道局へご連絡ください。確認に伺います。

【受注者】

会社名 〇〇〇〇水道(有)

現場代理人 〇〇 〇〇

TEL 084-000-0000

TEL 084-000-0000（夜間・休日）

【発注者】

福山市上下水道局 〇〇〇〇〇課

〇〇第〇担当

TEL 084-000-0000

TEL 084-928-1517（夜間・休日）

水道工事完成のお知らせ

〇〇〇〇建設株式会社

平素から水道事業の施工について、多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、福山市上下水道局発注の水道工事の 配水管布設工事（〇〇〇-〇） につきましては、みなさまのご理解とご協力により、〇〇年〇〇月〇〇日 をもちまして完成しましたので、お知らせいたします。

工事期間中は、大変ご迷惑やご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

なお、このたびの工事に関する問い合わせなどの連絡先は、次のとおりとなりますので、よろしくお願いいたします。

(連絡先)

受注者

住所

電話

発注者 福山市 上下水道局 工務部 〇〇〇〇課

電話 084-〇〇〇-〇〇〇〇

埋戻し土貫入試験結果報告書(土研式) (改良土)

番号

工事名

試験者

立会者

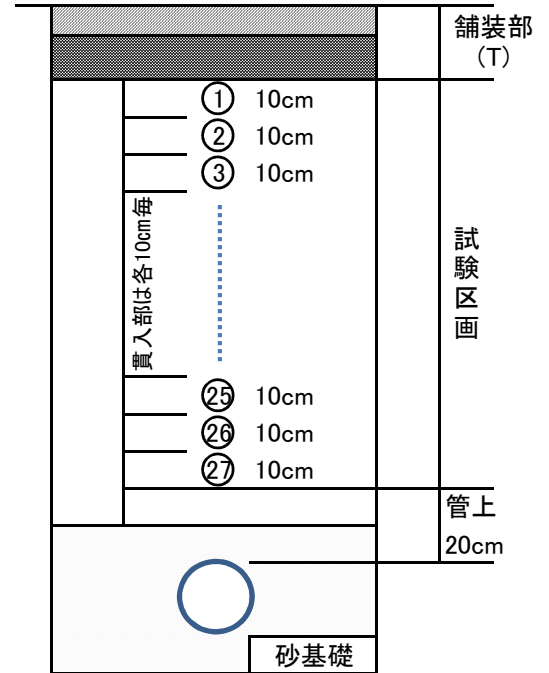
試験年月日

年 月 日

試験結果

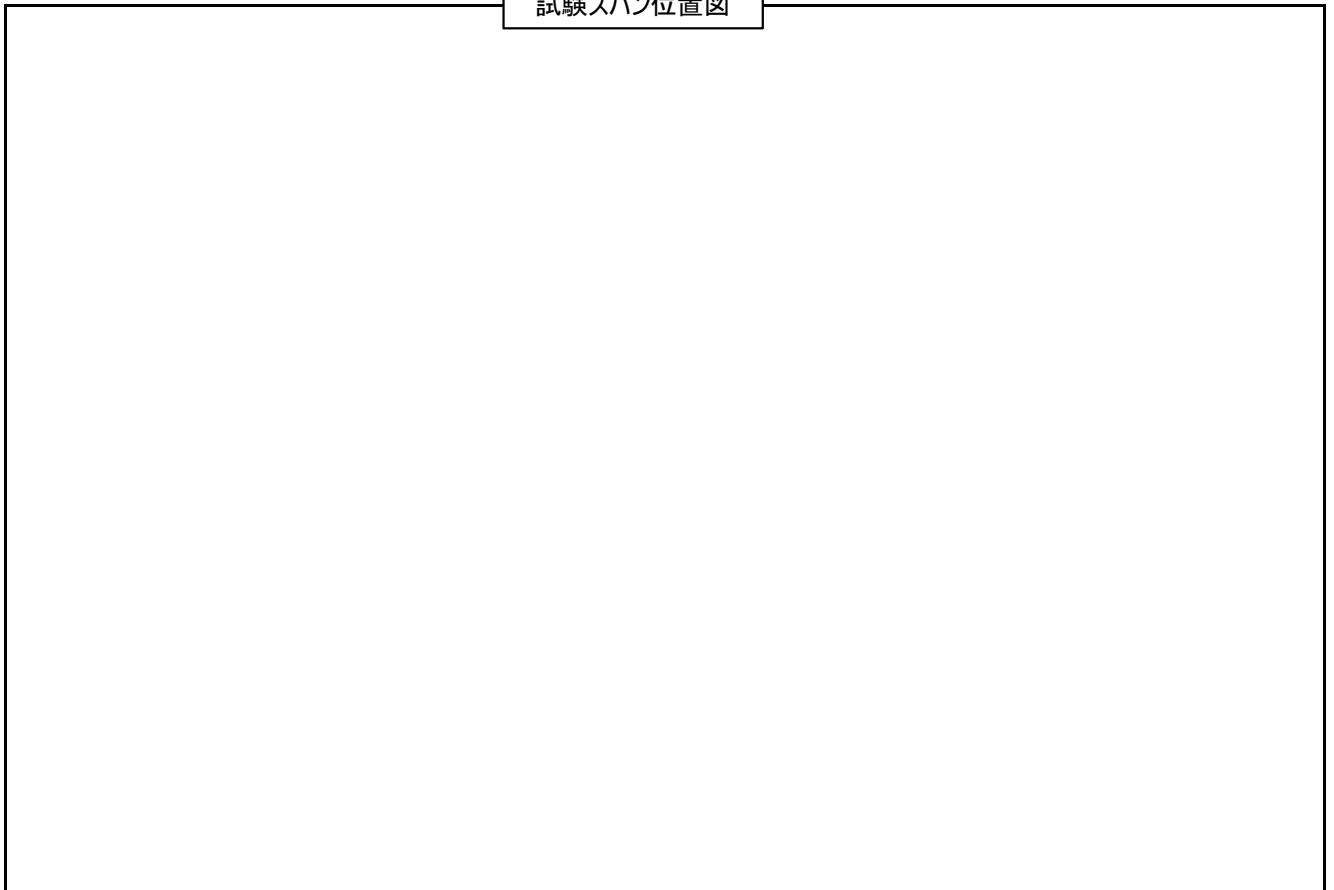
貫入部	打撃回数	貫入部	打撃回数	貫入部	打撃回数
①	回	⑩	回	⑱	回
②	回	⑪	回	⑲	回
③	回	⑫	回	⑳	回
④	回	⑬	回	㉑	回
⑤	回	⑭	回	㉒	回
⑥	回	⑮	回	㉓	回
⑦	回	⑯	回	㉔	回
⑧	回	⑰	回	㉕	回
⑨	回	⑱	回	㉖	回
				㉗	回

土被り	試験区間	試験回数
cm	cm	回
	値=(土被り)-T-20	値=(試験区間)/10



※ 試験対象深度については、改良土埋戻し天端より管上20cmの範囲で実施し、試験区間全体に必要な個所数を算出の上、全箇所での試験を行うこと。

試験スパン位置図



【試験状況が十分に確認できる写真を添付すること】

工 事 日 報

工 事 名		工 事 場 所		
受 注 者 名		施 工 年 月 日		天 候

施 工 内 容	
工 種	細 別

勤 務 状 況		使 用 機 械	
名 称	数 量	名 称	数 量

使 用 材 料	名 称	規 格	単 位	数 量	名 称	規 格	単 位	数 量	

配管図

担 当 監 督 員	次 長 又 は 主 任 監 督 員

現 場 代 理 人	主 任 技 術 者